

# JAFAME ニュース

NO.21-2 May 31th, 2018

日本貿易学会東部部会/アジア市場経済学会東部部会が2017年9月30日（於 明治大学）に、アジア市場経済学会東西合同部会・専修大学社会知性開発研究センター/アジア産業研究センター研究報告会が2017年10月25日（於 専修大学）に、日本貿易学会/アジア市場経済学会両西部部会合同研究報告会（於 広島経済大学）が2018年2月17日に、アジア市場経済学会東部部会研究報告会が2018年2月24日（於 専修大学）に開催されました。

各研究会にて御尽力頂きました先生をはじめ、関係者の皆様のご協力のお蔭で、充実した各プログラムが成功裏に実施されました。本会報冒頭におきましてまず、各研究会実行委員・事務局の先生方並びに関係スタッフの方々のご尽力に心より御礼申し上げます。

第22回全国研究大会（2018年度）は岡山理科大学にて7月7日（土）、8日（日）の日程で開催されます。研究活動の活性化を通じて、更なる学会の発展を目指したいと考えておりますので、学会員の皆様には一層のご協力を賜りますようお願い致します。また、学会の運営に関しまして、忌憚ないご意見・ご要望をお寄せください。

今後とも本学会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 本号の主な内容

- I. 2018年度全国研究大会開催のお知らせ
- II. 部会報告
- III. 学会の運営に関する事項
- IV. 2017年度海外視察研修報告
- V. その他

アジア市場経済学会

Japan Academy for Asian  
Market Economies

〒101-8425

東京都千代田区神田神保町3-8  
専修大学商学部  
岩尾詠一郎研究室内（神田校舎）  
TEL：03-3265-9267  
MAIL: eiiwao@senshu-u.jp  
HP：http://www.jafame.jp/

## I. 2018 年度全国研究大会開催のお知らせ

第 22 回全国研究大会実行委員長 山口 隆久

拝啓、新春の候、会員の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと存じ上げます。

さて、2018 年度のアジア市場経済学会 第 22 回全国研究大会は、統一論題『アジア市場経済とサービス化』をテーマに開催することになりました。

先進諸国経済では一気にサービス化が進んでおり、こうした動きはわが国だけでなく、アジア諸国にも着実に広がっています。言い換えれば、産業構造は大きく変化してきており、サービス化を背景として、アジアの時代を捉え直すことが重要といえます。特に、アジア市場経済について、これまでのように製造業、或いはモノを中心に分析するだけでなく、金融、旅行、飲食、医療、福祉、情報といった多様なサービス業、さらに、プロセスとしてのサービスという視点からも議論することは極めて大きな意味を持つものと思われまふ。本大会の統一論題は、アジア市場経済をサービス化といった視点から捉え直すことを意図しており、そこから、新しい「21 世紀はアジアの時代」が見えてくると考えまふ。

また、自由論題においては、上記テーマにとらわれることなく広くアジア市場を取り巻くさまざまな論点からの研究報告を期待してまふ。会員各位の本大会への参加と活発な議論を通じて、本学会の研究水準の一層の向上を願うとともに、皆様の多数かつ積極的なご応募をお待ちしてまふ。

敬具

### 記

- ・ 日時：2018 年 7 月 6 日（金）理事会  
7 月 7 日（土）・8 日（日）報告会、懇親会等
- ・ 会場：岡山理科大学
- ※ 研究報告の応募は 3 月 2 日に締め切らせて頂いてまふ。
- ※ 大会プログラムは、決定次第、本学会ホームページにてお知らせ致しまふ（会員様につきましてはメールでも連絡致しまふ）。
- ・ 問い合わせ先：  
全国研究大会事務局 大藪 亮  
Tel & Fax 086-256-9554（研究室直通），E-mail：jafame22@mgt.ous.ac.jp

### 【第 22 回全国研究大会統一論題及び趣意書】

#### 「アジア市場経済とサービス化」

21 世紀はアジアの時代といわれて久しい。しかし、未だその姿は見えてこない。一方、先進諸国経済は一気にサービス化が進んでおり、わが国もまた然りである。そして、こうした動きはアジア諸国にも着実に広がっている。言い換えれば、産業構造は大きく変化してきており、サービス化を背景として、アジアの時代を捉え直すことも重要といえる。

そして、産業構造ということからすれば、サービスは第三次産業を象徴する用語、即ち、サービス産業というような形で使われてきたが、それは、モノに軸足を置いた第一次産業と第二次産業以外の「残余」を意味していた。しかし、今日では、第三次産業たるサービス産業の比重（GDP、雇用）は非常に高く、先進諸国では 70-80% を占めており、単なる「残余」として見るにはあまりにも不適切であり、また、経済全体に与える影響はますます増大しつつある。こうした第三次産業を構成する業者は実に多岐に亘っており、今日ますますその多様性は高まっている。そうした中、サービスをモノ（財）

としてではなく、プロセスとして理解する新たな考え方が台頭し、今や国際的な議論となっている。そして、その主張の根底にあるのがすべての経済はサービス経済、或いはすべての企業はサービス企業というものである。

以上のことを踏まえるなら、アジア市場経済についてもこれまでのように製造業、或いはモノを中心に分析するだけでなく、金融、保険、不動産、旅行、宿泊、飲食、医療、福祉、情報通信といった多様なサービス業、さらに、プロセスとしてのサービスという視点からも議論することは極めて大きな意味を持つと考えられる。特に後者の立場からするなら、これまでモノの生産と流通に携わってきた製造業、卸売業、小売業、或いは物流業は、プロセスとしてのサービスという視点から新しく捉えることが可能となる。

そこで本大会では、統一論題を「アジア市場経済とサービス化」として、様々な角度からこの問題を取り上げることを提案する。それには、たとえば、以下のような論点を見出すことができる。

#### ①アジア諸国におけるサービス化の動向と課題

アジア諸国のサービス化を産業構造の変化という視点から明らかにするとともに、そのことに対する日本及び日本企業の役割とは何か、また、それはどのように変化しているかについて検討する。

#### ②日本のサービス関連企業のアジア市場での戦略展開

日本のサービス関連企業はどのようにしてアジア市場に参入し、どのような戦略を展開しているかについて明らかにする。なお、ここでは、伝統的な製造業、卸売業、小売業、物流業によるサービス化をプロセスの視点から分析することも含まれる。

#### ③各国（地域）経済、或いは各国（地域）間経済のサービスエコシステム

プロセスとしてのサービスという視点に立つなら、これまでのようなモノに軸足を置いた関係ではなく、どのようなサービスエコシステムが各国（地域）経済、或いは各国（地域）間関係において描くことができるか。

このように本大会の統一論題は、アジア市場経済をサービス化といった視点から捉え直すことを意図しており、そこから、新しい「21世紀はアジアの時代」が見えてくることを期待している。会員各位の統一論題及び自由論題への積極的な参加と活発な議論を通じて、本学会の研究水準の一層の向上を願うものである。

以 上

## Ⅱ. 部会報告

### 1. 日本貿易学会東部部会/アジア市場経済学会東部部会 報告

日 時：2017年9月30日（土）14：00～17：30

場 所：明治大学駿河台校舎リバティタワー 1096 教室

報告内容

特別講演 14：20～15：35（講演 60分、質疑応答 15分）

報告者：末松 広行（経済産業省 産業技術環境局長）

論題：「パリ協定と気候変動問題」

司会・コメンテータ：岩田 伸人（青山学院大学）

第1報告 15：45～16：30（報告 35分、コメント・質疑応答 10分）

報告者：魚住 和宏（神奈川大学）

論題：「ラオス視察報告 - ラオス経済と流通の現状と課題」

司会・コメンテータ：岩尾 詠一郎（専修大学）

第2報告 16：35～17：20（報告 35分、コメント・質疑応答 10分）

報告者：石川 雅啓（ジェトロ 日本貿易振興機構）

論題：「タイ新関税法施行と同国の貿易円滑化への取り組み」  
司会・コメンテータ：小林 守（専修大学）

2. アジア市場経済学会東西合同部会・専修大学社会知性開発研究センター／アジア産業研究センター研究報告会 報告

日時：2017年11月18日（土）14:30-16:30

場所：専修大学神田校舎1号館5階 ゼミ55教室

報告内容

第1報告

報告者：山中 高光（倉敷芸術科学大学危機管理学部危機管理学科 教授）

論題：「インドの経済発展—サービス産業主導型成長とメイク・イン・インド政策—」

第2報告

報告者：岩淵 護（青森大学総合経営学部 准教授）

論題：「スリランカの持続的成長から捉えたリンケージ・フレームワーク —東南・南アジアにおけるモノづくりネットワークより捉えたリンケージ・バリューという事象—」

3. 日本貿易学会・アジア市場経済学会両西部部会合同研究報告会

日時：2018年2月17日（土）13:00-17:30

場所：広島経済大学立町キャンパス 3階131教室

報告内容

第1報告

報告者：畢 重麗（広島修道大学商学研究科博士後期課程院生）

論題：「中国におけるネット通販を利用する消費者に関する実態調査」

コメンテータ：西手 満昭（広島修道大学）

第2報告

報告者：呉 力明（広島経済大学経済学研究科博士後期課程元院生）

論題：「中国の『一帯一路』戦略下の対外経済進出の現状と要因」

コメンテータ：山中 高光（倉敷芸術科学大学）

第3報告

報告者：中曾根 淑芳（関西外国語大学）

論題：「コンテナ取引条件に関する一考察」

コメンテータ：佐々木 健洋（ヒューマンアカデミー）

第4報告

報告者：藤岡 芳郎（大阪産業大学）

論題：「外食産業の国際化についての研究—タイ市場の現状調査から—」

コメンテータ：李 玲（広島市立大学）

第5報告

報告者：岩田伸人（青山学院大学）

論題：「米国トランプ政権の税制改革が国際貿易へ与える影響と課題」

コメンテータ：中井 教雄（広島修道大学）

4. アジア市場経済学会東部部会研究報告会

日時：2018年2月24日（土）14:30-16:15

場所：専修大学神田校舎1号館5階ゼミ51室

報告内容

第1報告

報告者：佐脇英志氏（亜細亜大学）

論題：「アジアで活躍する日本人企業家の事例研究—アジア市場経済における新し

い動き」

第2報告

報告者：小林弘明氏（千葉大学），石田貴士氏（千葉大学），丸山敦史氏（千葉大学），井上荘太郎氏（農林水産政策研究所），瀬尾充氏（農林水産省，在ラオスJICA専門家）

論題：「ラオス・ビエンチャン近郊におけるコメのバリューチェーンと消費者選好—タイとの比較を交えて—」

以上

### Ⅲ. 学会の運営に関する事項

#### 1. 2017年度 第2回理事会

期 日：2017年11月18日

時 間：13時～14時30分

場 所：専修大学神田校舎1号館ゼミ56教室

出席理事・会計監事・顧問（敬称略）

小林守，石川幸一，中井教雄，岩淵護，石川和男，小森正彦，細川大輔，山中高光，岩尾詠一郎（出席：9名，委任状：8通）

WG（敬称略）

村松潤一（座長）

顧問（敬称略）

岡本喜裕（20周年記念行事実行委員長），松江宏

#### （1）新体制における幹事の委嘱について

- 以下の幹事候補が提案され承認された。（敬称略）

##### 【西部部会幹事候補】

柯麗華（静岡産業大学），橘洋介（広島修道大学），勝田佳裕（大阪電気通信大学），清水真（中部大学），坂田裕輔（近畿大学（福岡）），清野聡（岡山理科大学），ゲン・ドゥック・ラップ（広島修道大学），青木均（愛知学院大学），下野寿子（北九州市立大学），埴本一雄（安田女子大学）

##### 【東部部会幹事候補】

古川久嗣（日本経済研究所），大島英雄（大島研究所），姜徳洙（嘉悦大学），今村一真（茨城大学），葉山幸嗣（和光大学），石川雅啓（日本貿易機構），高橋伸二（函館大学）

#### （2）顧問の委嘱について

- 以下の顧問候補が提案され承認された。（敬称略）

村松 潤一（岡山理科大学）

前田 和實（元・専修大学）

#### （3）部会研究会について

- 東西合同部会（2017年度東部第三回，2017年度西部第二回）が専修大学アジア産業研究センター研究会と合同で，2017年11月18日午後2時半から開催されることが報告された。
- 今後の研究会については，副会長と研究委員会の先生で設定していくことが確認された。

#### (4) 第22回全国研究大会の準備状況について

- ・山口理事の代理で村松先生から統一論題及び趣旨書の説明と、下記報告があった。統一論題は、「アジア市場経済とサービス化」とした。全国研究大会は、2018年7月6日～8日で開催する。全国研究大会では、特別講演とシンポジウムの開催を検討している。予稿集は、他の学会で、ペーパレス化が進んでいるところもあるので、来年の全国研究大会では、予稿集のペーパレス化ができないかとの提案がなされた。予稿集の電子化については、プログラムは印刷して配付するが、予稿集は、顧問、理事、名誉会員のみ配付し、それ以外の会員には、インターネットからダウンロードしてもらう方法に変更することが了承された。本趣意書と開催日程は、なるべく早くHPに掲載することが提案され、了承された。

#### (5) 国際交流について

- ・石川和男国際交流委員会委員長から、本年度の国際交流活動について、下記、報告がなされ、了承された。2018年3月15日(木)～18日(日)で予定している。場所は、ベトナムのダナン市で、ダナン経済大学、現地企業、現地機関などを訪問することを計画している。例年通り、現地集合で同じホテルに宿泊し、事前に計画している訪問先に全参加者で訪問することを考えている。

#### (6) 会員の入退会について

- ・会員の入退会は無いと報告がなされた。

#### (7) 各委員会報告

- ・中井総務委員会委員長より、昨日付でJAFAME21-1が発行されたことが報告された。入会届と変更届のフォーマット変更について、前の総務委員会より引き継いでおり、フォーマットが完成している。現在、フォーマットを委員会内でチェックをしている。この新しいフォーマットは、次回もしくは次々回の理事会で諮り、その後HPに掲載することを考えているとの報告がなされた。
- ・山口年報委員会委員長の代理の村松先生から、本年の全国研究大会の報告者を対象に、投稿者の募集を行っていること。原稿の締切が2018年1月20日であることが報告された。

また、今号は、2編しか投稿が無かったので、活性化の観点から、新たなルール作りについて検討している。年報は、全国研究大会で報告した人が投稿できる規定になっている。他の学会では、査読方法を工夫して、全国研究大会での報告無しの投稿を認めている学会もあった。このような事例を参考にして、具体的な提案を次回理事会に提示することが報告された。
- ・石川幸一副会長より、国際シンポジウムの報告者に既に原稿執筆の依頼をしており、3月末までに山口年報委員会委員長にチェック済の原稿を提出することになっているので、この原稿を年報の特集として掲載したら良いのでは無いかとの提案がなされ、了承された。
- ・村松座長より、学会創立20周年の事業として、過去の全論文についてのレビューが終了しており、冊子にできる状態になっているので、今年度の予算の執行状況をみながら可能であれば、発行したいとの報告がなされた。

#### (8) その他

- ・石川幸一副会長より、東部部会の次回研究会を2月24日(土)に開催することを考えている。開催1ヶ月前までに報告者とコメンテータ各2名を決めていくとの報告がなされた。
- ・中井総務委員長より、西部部会では貿易学会との合同研究会を、2月17日(土)に広

島経済大学立町キャンパスで開催することで準備を進めているとの報告がなされた。

## 2. 2017年度 第3回理事会

期 日：2018年4月14日

時 間：13時30分～15時

場 所：専修大学神田校舎7号館773教室

出席理事（敬称略）

小林守，石川幸一，関川靖，中井教雄，岩淵護，山口隆久，石川和男，石原伸志

小森正彦，大藪亮，細川大輔，岩尾詠一郎（出席：12名，委任状：4通）

顧問（敬称略）

岡本喜裕，村松潤一

幹事（敬称略）

石川雅啓，大島英雄，高橋伸二，埜本一雄

### （1）2018年度全国研究大会（第22回 岡山理科大学）の準備状況について

大藪理事から，報告希望が25件あり，これからプログラムを作成し，5月中下旬に会員向けに発送すること，これから討論者と司会のお願いしていくことが報告された。

村松顧問から，シンポジウムでは2名の講演と討論の実施を考えていると報告された。

### （2）今後の全国研究大会の開催校について（2019年度，2020年度）

小林会長から，今後の全国研究大会の開催校について，2019年度は，専修大学神田校舎で開催したいとの提案がなされ，了承された。

2020年度は，西部地区での開催をお願いしたく，今後，小林会長が西部地区の先生にご相談すると報告された。

### （3）会員の入退会について

#### ① 入退会等について

事務局より，入会，退会，会員種別変更について報告がなされ，了承された。なお，2018年4月14日現在の会員数は，231名（正会員168名，院生会員9名，法人会員2社，一般会員1名，海外会員51）である。

#### ② 新会員の拡大について

小林会長から，退会者が増えていることから，今後，新会員を増やすための方策を検討する必要があるとの意見が述べられた。

この意見に対して，複数の理事から，大学教員や研究者以外の会員を増やす方法についての提案をいただいた。さらに，法人会員を増やすことも検討する必要があるとの意見もいただいた。

小林会長から，これらの提案と意見に対して，大学教員や研究者以外の方は，研究業績が無い場合も想定されるが，本学会では，会員種別に正会員と一般会員があり，研究業績が無い場合は，一般会員で入会いただく方法もある。なお，一般会員は，選挙権と被選挙権は無いが，その他の研究発表等は正会員との違いは無い。また，研究業績があれば，手続きによって，一般会員から正会員への変更も可能であるとの説明がなされた。

また，退会者が増えていることに対して，他の学会でも実施されているシニア会員制度を本学会でも検討しても良いのでは無いかとの意見をいただき，今後，検討していくこととした。

#### (4) 各委員会報告

##### ① 総務委員会（会員名簿、HP 等について）

中井理事より、JAFAME ニュース No21-2 を現在作成中で、今月中には原稿を作成し、5月中旬までにはHPで公開する予定であるとの報告がなされた。

中井理事より、現在、本部事務局、学協会、総務委員会の3箇所個別に管理している会員名簿を、統一化したいとの提案がなされるとともに、具体的な「会員情報確認表」のフォーマットが示された。あわせて、「入会申込書」、「会員情報変更申請書」の新たなフォーマットも示された。

本提案について、理事から、3つのフォーマットともに、会員名簿への掲載不可の欄があるが、この表現だと一切不可とも受け取れるため、適切な表現に変更した方が良いとの指摘をいただいた。

この指摘に対して、項目ごとに公開・非公開を示すフォーマットになっている、「会員情報変更申請書」を参考に、「入会申込書」、「会員情報変更申請書」を修正していくとの説明がなされ、その内容で修正することを前提に、了承された。

##### ② 年報委員会（第20回大会年報、第21回大会年報の進捗状況について）

山口理事より、第21回大会年報は、現在11本の原稿と特別寄稿1本の原稿が集まっているとの報告がなされた。なお、現時点で、第20回大会年報の発行の目処が立っていないことから、これからは、第21回大会年報との合併号として発効する方針を進めていきたいとの提案がなされ、了承された。

山口理事より、『アジア市場経済学会「年報」論文投稿に関する内規』について、修正案が示され、第22回大会年報から適用したいとの提案がなされた。

本件について、全国研究大会は、未発表が原則となっている。一方、全国研究大会を経ないで投稿する場合は、今回提案した内規では、未発表であるとの条件が示されていないため、全国研究大会を経て投稿する場合との投稿条件を同一にするためにも、未発表に限るとの記載が必要では無いかとの意見をいただいた。

また、投稿者について、近年、共同発表も増えている。共同発表について、執筆者全員が会員である必要があるのか、半数で良いのか、学会によって判断が異なっていることから、当学会で、どのように判断するのか、検討が必要では無いかとの意見をいただいた。

これらの意見に対して、いただいた意見を踏まえて、内規を新たに修正し、修正した内規案を次回理事会で改めてご確認いただきたいとの説明がなされた。

山口理事より、『アジア市場経済学会「年報」執筆、寄稿・投稿要領』について、案が示され、第22回大会年報から適用したいとの提案がなされた。

本件について、会員から本フォーマットを投稿者に事前に送って欲しいとの要望もあることから、全国研究大会終了後に報告者へ送付すること、また、ホームページへも掲示することを前提に、了承を得られた。

##### ③ 研究委員会（部会研究会予定について、研究プロジェクトについて、学会賞について）

岩淵理事より、11月に東部部会、西部部会で研究会開催を検討いただきたいとの説明がなされた。なお、研究会が同日開催にならないように、東西部会で、日程調整いただきたいとの要望をいただいた。

岩淵理事より、今後、研究プロジェクトを募集していくことが確認された。

小林会長より、学会賞の候補者について、ご推薦（自薦・他薦）いただきたいとの説明がなされた。

##### ④ 国際交流委員会

石川理事より、本年度の海外研修は、ベトナムのダナンに4名が参加されたことが報告された。来年度は、海外研修参加者より、12月末頃の実施も検討いただきたいとのご意見があったことから、今後、実施時期の変更を検討していくとの説明がなされた。



#### (5) 「アジア市場経済学」構築WGについて

村松顧問より、100 頁程度 of 原稿がまとまっている。これから、校正作業を進め、7 月には発行されるとの報告がなされた。

#### (6) その他

事務局より、川邊信雄先生から「「国民食」から「世界食」へ」をご献本いただいたとの報告がなされた。

事務局より、学術振興会から育志賞受賞候補者の推薦書類が届いているので、受賞候補者がいる場合は、事務局までご連絡いただきたいとの報告がなされた。

小林会長より、7 月の全国研究大会で開催予定の理事会前に、2017 年度の決算と 2018 年度の予算について理事会に諮り承認をえる必要があるが、その他の議論すべき議題が無いため、本年度は6 月中にメール審議で実施したいとの提案がなされ、了承を得られた。

### IV. 2017 年度海外視察研修報告

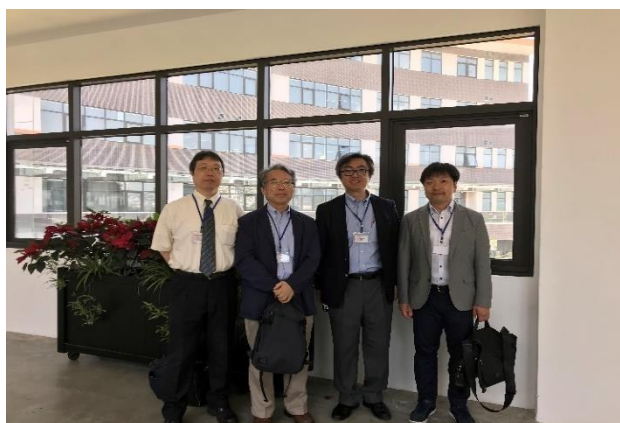
国際交流委員長 石川 和男

2017 年度の海外視察研修は、2018 年 3 月 15～18 日の日程でベトナム・ダナンを訪問した。日本からの参加者は、小林守学会長（専修大学）、秋山憲治（神奈川大学）、飯島高雄（近畿大学）、石川和男（専修大学）の 4 名であった。また、海外会員のフン会員（ダナン経済大学専任講師）にもご参加いただいた。

15 日は現地到着後、夜に翌日からの打ち合わせを参加者全員で行った。16 日は午前中に FPT 社を訪問し、Phuong Anh 氏より、丁寧な説明を受け、社内を見学させてもらい、社員食堂で食事を摂った。同日午後からはダナン経済大学を訪問し、まず副学長を表敬訪問し、意見交換を行った後、共同セミナーを開催した。当学会からは小林会長が報告をし、日本への留学経験のある同大学の教員による研究報告も行われた。17 日は午前中、ダナン運送協会の会長である Hiep 氏からは同氏の会社でベトナムの物流についてお話を伺った。またダナンという地域が抱える物流問題についても詳しくお話を伺った。同日午後からは、日系企業であるダナンロジテムを訪問し、同社の森支店長からベトナムの物流問題について、日系企業の立場からのお話を伺った。また倉庫内も見学させてもらった。その後、ダナン近郊のリゾート地やホイアンを訪れ、多くの観光客で溢れるベトナム有数の観光地の様子を見学した。そして 21 時過ぎにホテルに到着した。18 日は参加者の予定により、帰国時間が異なったため、それぞれの便で帰国した。

今回の海外視察研修は、訪問先が企業、大学表敬訪問とセミナーの開催、インタビュー先も現地企業、日系企業など、非常に短い期間ではあったが、有意義な海外視察研修となった。

特にダナン経済大学のフン会員には、訪問先の手配など週末での視察となったために大きな苦労があったと思われるがご尽力いただいた。記してお礼申し上げたい。今後、年度末の視察研修のため、参加者の勤務先の都合などにより、参加が難しいとの意見も頂戴したため、少し時期を考えての開催も考えなければならないだろう。



FPT 社にて（2018 年 3 月 16 日）

## V. その他

### 1. 「入会申込書」を更新しました。

会員の皆様により充実した学会情報の提供を目指し、本学会の「入会申込書」を更新致します。2018年8月以降に入会を希望される方または新規入会者をご紹介頂ける会員様につきましては、2018年7月下旬に本学会ホームページにて公開予定の新規の「入会申込書」をご利用下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

### 2. 「会員情報変更申請書」を新規に公開します。

2018年7月下旬に本学会ホームページにて「会員情報変更申請書」を新規に公開致します。ご所属や連絡先等に変更がございましたら、「会員情報変更申請書」をお使いください。なお、2018年8月以降におきまして、会員情報の変更手続きにつきましては、本書類の提出のみに一本化されますのでご注意ください。

### 3. 「会員情報確認票」を送付致します。

現在、アジア市場経済学会では、会員の皆様の情報更新作業を行っております。つきましては、会員の皆様に「会員情報確認票」を郵送にてお送り致します（7月下旬を予定）。送付致しました内容に誤り等ございましたら、「会員情報変更申請書」をご利用の上、所定の手続きをして頂きますよう、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

以上